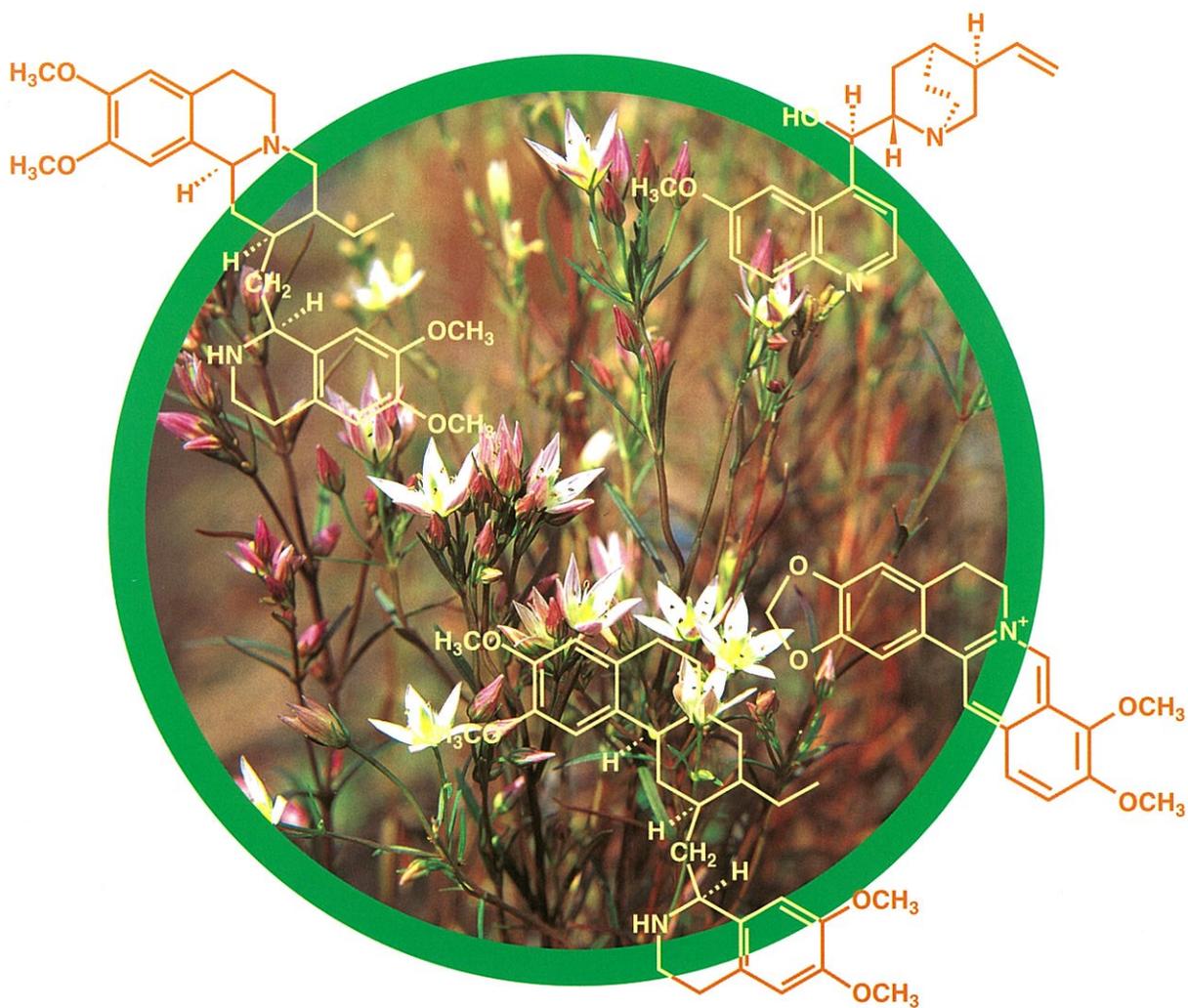


# 漢方薬・生薬

## 薬剤師講座

### テキスト-9



# 産婦人科疾患と漢方

社団法人 北里研究所東洋医学総合研究所 医長  
渡辺 賢治

## 1. 産婦人科領域における漢方の適応と不適応

### 1) 漢方治療の適応

排卵障害（不妊症）、子宮内膜症、月経前緊張症、月経困難症、不正性器出血症、妊娠・出産に伴う各種障害、冷え性、更年期障害

### 2) 漢方の不適応

緊急の処置を要する場合、手術療法が必要なもの  
子宮外妊娠破裂、早・流産の大量出血、弛緩性出血、そのほかの大量出血それに引き続きおこるショック状態、急性腹症など緊急の手術、処置を必要とする場合、悪性新生物、急性劇症感染については現代医学的治療が優先する

### 3) 漢方治療と現代医学的治療の併用

併用により、それぞれの単独治療より有効性を増すことがある  
両者を併用しても問題となるような副作用はない

### 4) 性ホルモン剤の使用

本領域においては性ホルモン剤を頻用するが、長期連用を必要とする場合は副作用の少ない漢方治療を優先させるとよい

## 2. 診療のポイント

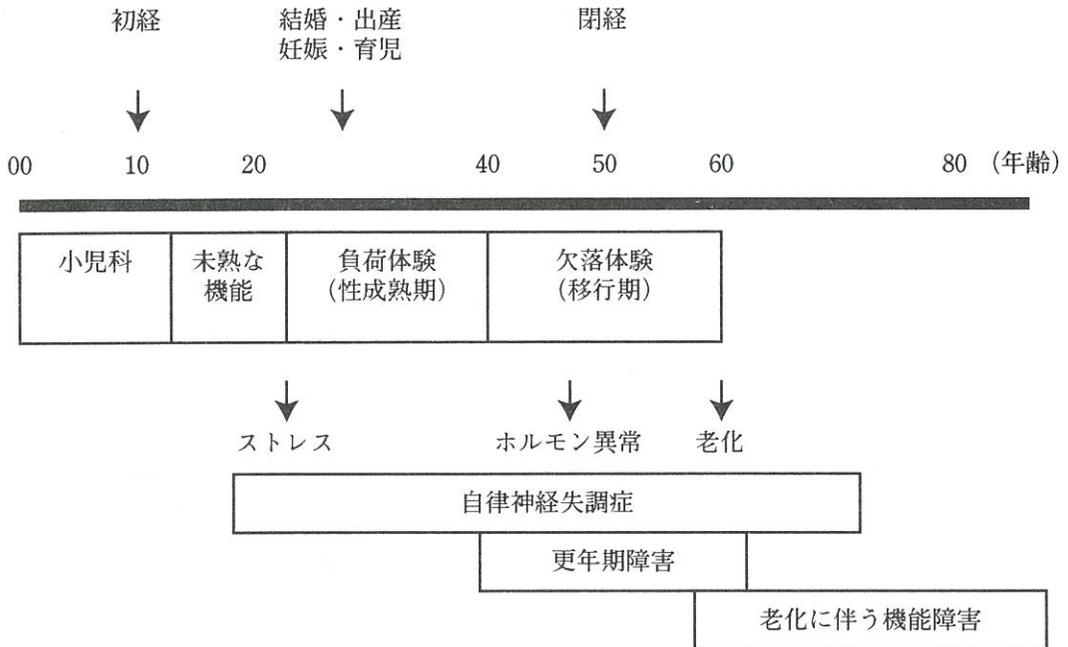
### 1) 女性の生理を考慮に入れる（初潮、閉経、性周期など）。

古典『素問・上古天真論』では、女性は7歳ごとに身体的変化が現れ、以下の通りとなる。

7歳	腎気の働きが活発化し、歯が入替わり、髪も長くなる
14歳	天癸が充満し、任脈の流通が増進し、太衝の脈が盛んになり、月経が始まる
21歳	体格は頂点に達する
28歳	骨格が充実し、引き締まり、毛髪はもっとも長く、豊かになる
35歳	陽明経（大腸経、胃経）の機能が衰える
42歳	白髪が進行する
49歳	任脈が空虚になり、太衝の脈は衰え、月経が停止し、生殖機能は絶えて閉経となる

「腎」と呼ばれる生まれ持った生命力が子宮の発達を促し、「脾」と呼ばれる消化吸収力や免疫力と、「肝」と呼ばれる内分泌や自律神経系の調節作用によって、子宮に血液が満ち溢れると月経が周期的に招来すると考える。

月経のある期間、この「腎」「脾」「肝」がより重要な役割を与えると思われる。



2) 漢方の気・血・水の異常を考える。

3) 婦人科疾患の基礎に冷えのあることが多く、寒冷刺激が増悪因子となることがある。

### 3. 気・血・水の病態概念による症状

気の病	気虚 気滞 気逆	体がだるい、気力がない、疲れやすい、日中の眠気など 抑鬱気分、のどのつかえ感、頭重・頭冒感、腹部膨満感など 冷えのぼせ、動悸発作、発作性頭痛、焦燥感、肩こりなど
血の病	血虚 瘀血 血熱	過少月経、眼精疲労、顔色不良、皮膚の乾燥と荒れ、こむらがえりなど 月経障害、臍傍圧痛、舌の暗赤紫化、色素沈着など 熱証にみられる出血など
水の病	乾症 水毒	水分（津液）の不足、虚熱の症状など 浮腫傾向、胃部振水音、身体の重い感じ、めまい、立ちくらみ、朝のこわばり、多尿・乏尿、水様鼻汁・喀痰など

気血水	代表的生薬	代表的治療方剤
気 虚	人參、白朮、黄耆	建中湯類、人參湯、四君子湯、補中益気湯
気 滯	厚朴、紫蘇、香附子	香蘇散、半夏厚朴湯、紫胡加竜骨牡蛎湯
気 逆	桂皮、半夏、黄連	苓桂朮甘湯、苓桂甘藶湯、奔豚湯、黄連湯
血 虚	当帰、芍薬、地黄	四物湯、芍帰膠艾湯、十全大補湯
瘀 血	当帰、川芎、紅花 桃仁、牡丹皮	桂枝茯苓丸、当帰芍薬散、桃核承気湯、 大黄牡丹皮湯、折衝飲
水 滯	茯苓、沢瀉、蒼朮 白朮、猪苓、半夏	五苓散、真武湯、防己黄耆湯、木防己湯、茯苓飲、 小青竜湯

#### 4. 頻用処方証

実証	中間症	虚証
桃核承気湯 通導散	桂枝茯苓丸 加味逍遙散	当帰芍薬散 当帰建中湯 当帰四逆加呉茱萸生姜湯

#### 5. 産婦人科疾患の頻用処方 ～三大処方～

##### 1) 当帰芍薬散

- ～蒲柳の質～
- 血を補い、血の生成・循環を妨げる。余分な水を捌く。
- 「安胎薬」の作用。
- 色白、皮膚のキメが細かく、水っぽい感じ、筋肉のトーンスが柔らかく浮腫傾向。
- 冷え症で朝夕に下肢の浮腫傾向。
- 肩凝り、易疲労感の訴え。
- 胃腸の弱いものは、食欲不振や下痢・便秘のことも。

##### 2) 桂枝茯苓丸

- 血行をよくして気めぐりをよくし、余分な水や病理的産物を排除。
- 一面、「墮胎薬」の作用 「催生湯」の別名。←→「安胎薬」
- 妊娠中は使用しない～ただし、分娩促進や稽留流産の治療に用いられる場合も。
- 赤ら顔、筋肉のトーンス高い。

##### 3) 加味逍遙散

- 中枢性に「トランキライザー」として。
- 末梢性に血行促進、抗炎症など多彩な作用。
- 不定愁訴、頭痛、肩凝り、不眠、のぼせ、めまい等。

- どちらかというときスリムな感じで神経質な印象。
- 身体的・精神的愁訴が多くコロコロ変化。
- シミ・目の回りに隈。
- 山梔子には弱い瀉下作用があり→下痢して具合の悪いものには中止。

## 6. 産婦人科疾患の頻用処方 ～その他の処方～

### 1) 桃核承気湯

- ガッチリしたタイプの女性向き。
- 多くは便秘とともに急激に起こる精神症状に対し、鎮静的に作用。
- 服用後下痢しても  
気分がすっきりするものは服用量に注意して続服。  
下痢してガックリと疲弊するものは中止。

### 2) 大黃牡丹皮湯

- 本来は虫垂炎様の炎症性腸疾患に。
- ガッチリしたタイプの女性向き。
- 便秘を伴う種々の疾患に応用。
- 特に下腹部の炎症性疾患に応用。

### 3) 女神散

- 産前・産後、更年期の「トランキライザー」として使用。
- めまい・のぼせの訴え多い。
- 加味逍遙散のように愁訴が移動せず固定的な症状のことが多い。
- 便秘がちのものによい。

### 4) 当帰四逆加呉茱萸生薑湯

- 寒冷によって誘発される種々の疼痛性疾患に使用。
- 「手足厥寒、脈細にして絶せんとする」ものを目標。
- 古人が疝気と呼んだ病気。腹に力がなくガスがたまって痛むことが多い。
- poly surgeryも本処方を使う一つの目標。
- 煎じ薬で飲みにくい場合 香蘇散→当帰芍薬散→当帰四逆加呉茱萸生薑湯のことも

#### [参 考] 大塚敬節 「疝気症候群A」

1. 慢性に経過する疼痛を主訴とし、寒冷によってその症状が増悪する。
2. 疼痛は腹痛を主訴とし、ことに下腹部にみられることが多く、腰痛、背痛、頭痛、四肢痛を伴うものがある。
3. 疼痛の本態を近代医学的な検索によって明確にしがたいことが多く、神経性のものと診断される傾向がある。
4. 腹診上では、下腹部で左右または右、左のいずれかの部位に強い圧痛を訴えるものが多かった。しかしこの部に抵抗を触れることはなかった。また、腹部軟弱なものと腹直筋の拘急しているものがあった。

て、その腹状は一定していないが、虚証であって、寒性であることはすべての症例に共通である。

5. 疼痛はつれる、突っ張るという状態のものが多く、痛む箇所が一箇所であることは珍しく、多くはあちこちで痛む傾向がある。
6. 肝経の変動によって起こってくると考えられ、殊に生殖器、泌尿器方面の障害を訴えるものが多かった。

## 5) 温経湯

- 「寒冷によって経脈の運行が障害されているものに使用」とされる。
- 特に骨盤内鬱血症候群に適応。
- 手足のほてり、口唇の乾燥等 更年期障害の兆候として理解。
- 「経絡」を「温める」薬の意。寒冷刺激が持続して経絡の運行が障害されているものに使用。
- 腹診で臍の下部に馬蹄形に抵抗圧痛を示す。

## 6) 五積散

- 「五積」とは気・血・痰・寒・食の5つが体内に蓄積して生体の機能障害を起こしている、という意味である。
- 津田玄仙の4つの目標
  - ①腰冷痛 ②腰股攣急 ③上熱下冷 ④小腹痛
- 冷え症で腰痛や手足のしびれ、下肢のむくみ等種々の不定愁訴を伴うものに使用。
- 顔色は悪く、舌にうすい白苔があり、舌色が悪いことが多い。
- 腹に力がなく、便秘傾向。
- 腰痛「太ももにつる感じ」と訴えることあり。
- 痛みは痺れて痛む、という場合が多い。
- 麻黄を含むので胃腸障害を来すものには中止。

## 7) 半夏厚朴湯

- 咽中炙癢一咽喉頭異常感症が目標～ただしこの兆候ばかりにとらわれていてはだめ。
- ストレスに過敏に反応しやすい人の、種々の身体症状に使用。

## 8) 香蘇散

- 気うつ傾向のものに好んで使用される。
- 意気消沈しているもの、気が減入って何もできないものなどに使用。
- 妊婦や胃腸の弱いひとの風邪薬

## 7. 妊婦に対する注意

- 妊娠初期（器官形成期：妊娠6～11週）は慎重に投与する。
- 注意すべき生薬
  - 禁忌——巴豆、大戟、商陸、三稜、莪朮、牽牛子
  - 要注意——大黄、桃仁、紅花、牛膝、枳実、附子、薏苡仁

### ◎妊婦に対する漢方薬投与と注意点 注意すべき生薬の作用

乾姜	新陳代謝機能亢進、利尿	大黄	子宮収縮、下腹部充血、消炎、下剤
枳実	子宮収縮増強、健胃	麻子仁	緩下
紅花	子宮筋緊張、駆瘀血、鎮痛	桃仁	消炎、鎮痛、駆瘀血
厚朴	利尿、去痰	薄荷	発汗、解熱、健胃
牛膝	子宮筋収縮増強、通経、駆瘀血、利尿	半夏	鎮吐、鎮嘔、鎮咳、去痰
呉茱萸	子宮筋興奮、健胃、鎮痛、利尿	附子	興奮、強心、鎮痛、利尿、毒性有
五味子	鎮咳	芒硝	瀉下、利尿
酸棗仁	神経強壮、催眠	牡丹皮	消炎、駆瘀血、子宮内膜の充血
辛夷	排膿	薏苡仁	子宮筋興奮、利尿、消炎、排膿、鎮痛

## 8. 疾患別の頻用処方

### 1) 月経異常・月経困難症・月経前緊張症

～漢方治療のポイント～

- ・月経発来前から、月経発来の第1・2日ごろにかけて下腹痛、腰痛、嘔気を訴え、静臥を要する場合は、胃腸が丈夫な者に多い
- ・月経の全期間を通じ、また月経の終了近くで症状が増悪するものは、胃腸が虚弱であることが多い
- ・月経周期が早く繰り上がる場合は、体が丈夫で顔色のよいものに多い。
- ・月経周期が遅れる場合は、体が虚弱で顔色が青白く、冷え性のものに多い。
- ・経血量が多く血色の濃い場合は、体が丈夫で顔色のよいものに多い。
- ・経血量が少なく血色のうすい場合は、体が虚弱で、冷え性のものに多い。
- ・血色が暗赤色で、血塊を認める場合は、末梢のうっ血および微小循環障害と推測される状態（舌縁口唇暗紫色、皮膚粘膜うっ血、末梢のうっ血など）を伴うことが多い。
- ・当帰、川芎、紅花、桃仁、牡丹皮を含む漢方薬の使用頻度が高い。

- 当帰芍薬散：虚証で、冷え症で貧血傾向があり、めまい、頭冒感、低血圧などのある例
- 当帰建中湯：虚証で、月経終了近くに急激な下腹痛が起り、背中に響く程である。
- 桂枝茯苓丸：中間証で、腹診上も瘀血所見がはっきりしている。のぼせ、肩こりがある。
- 桃核承気湯：実証、便秘傾向があり、月経時、精神不穏あり。のぼせ、肩こりがある。

- 安中散：胃腸の弱いもの。処方中の延胡索、良姜、茴香、甘草などはすべて月経痛に有用な生薬である。
- 当帰四逆加呉茱萸生姜湯：冷え症、腰痛。冷えると腹痛をきたす。しもやけなどができやすい。
- 芍薬甘草湯：月経痛に頓服的に用いる。
- 呉茱萸湯：月経時に頭痛が激しくて、嘔吐を伴うような例。冷えがある。

## 2) 冷え症

- 当帰芍薬散：当帰はセリ科の植物の根で、体を温め、血を増し、血の鬱滞を去り、強壯、鎮痛、鎮静の作用がある。
- 当帰四逆加呉茱萸生姜湯：当帰、呉茱萸を含み、ひどい冷えで、冬はしもやけになりやすく、また、冷えると下腹部痛、腰痛、四肢痛、頭痛を起こす。
- 桂枝茯苓丸：桂皮は血行を盛んにし、悪寒を去り、のぼせを下げる効果がある。また、駆瘀血作用によって血流を改善する。
- 加味逍遙散：当帰、桂皮を含む。不定愁訴の多い婦人の冷え症に用いる。
- 真武湯：虚証で胃腸が弱く、血色が悪く、冷え症で、下痢しやすく、疲労感の強いものに用いる。腹にも脈にも力がなく、めまい、動悸があり、全体に生気に乏しい。
- 四物湯：当帰・芍薬・川芎・地黄から構成され、種々の処方の基本骨格となっている。当帰・川芎は温性の駆瘀血薬であり、一般的に顔が青白く、貧血気味で皮膚乾燥を認める者に用いる。
- 人参湯：胃腸の弱い人の冷え。血色がすぐれず、下痢しやすい。口に薄い唾が溜まりやすい。
- 五積散：冷えのぼせタイプで腰痛などを伴う。

## 3) 排卵障害・不妊症

### 瘀血による場合

- 当帰芍薬散：第一選択薬。
- 桂枝茯苓丸：中間証で腹部に瘀血所見を認める。
- 当帰四逆加呉茱萸生姜湯：冷えの強い者に。
- 温経湯：胃腸虚弱で冷え症だが、手足がほてる、と訴える者。
- 桃核承気湯：実証でのぼせがあり、便秘がちな者。

### 消化器機能が虚弱な場合

- 人参湯：顔色不良、胃下垂、胃アトニーで冷えがある。
- 六君子湯：食欲不振で食後に胃もたれがある。
- 小建中湯：疲労倦怠、腹痛を主訴とする。痩せて体力のない場合。

#### 4) 不正出血

- 芍婦膠艾湯：第一選択薬。中等症から虚証で、出血が長引き貧血やめまいがあり、手足の冷えを伴うもの。
- 黄連解毒湯：中間証から実証の人でのぼせやすく、いらいら、精神不安などのあるものの、急性出血に用いる。鼻出血、咯血、吐血など上半身の出血に用いることが多いが、子宮出血、潰瘍性大腸炎、痔出血などにも用いる。冷やして飲む。
- 温清飲：中間証で、冷えのぼせ傾向のある亜急性の出血に用いる。黄連解毒湯で止血しない時に良い。また、更年期婦人の反復する出血に用いる。
- 温経湯：手掌のほてり、口唇の乾燥があり、下腹部の冷え、痛みなどを伴う。
- 桂枝茯苓丸：上記の通り。
- 十全大補湯：長引く出血で全身消耗状態を来した者。
- 帰脾湯：十全大補湯で胃腸障害を起こすもの。考えごとが多く、心配症で動悸があり、疲労しやすい者。

#### 5) 更年期障害

不定愁訴の多いもの

- 加味逍遙散：中間証からやや虚証で多愁訴な者。
- 女神散：中間証で比較的幅広く自律神経症状、精神症状を目標として使用する。
- 抑肝散：神経過敏で怒り易い人。
- 柴胡加竜骨牡蛎湯：中間証以上で不安、不眠、いらいら、動悸などの精神神経症状がある場合。
- 桂枝加竜骨牡蛎湯：虚証で神経過敏であり、胸腹部で動悸の亢進がある。気分が憂鬱で夜眠れず、些細な事に驚き易い。

瘀血群

- 桂枝茯苓丸：頭痛、肩こり、めまい、のぼせ、下腹部膨満感、毛細血管拡張などを目標とする。
- 桃核承気湯：実証で便秘傾向の者。
- 黄連解毒湯：のぼせに用いる。
- 当帰芍薬散：色白の冷え症タイプ。
- 当帰四逆加呉茱萸生姜湯：冷えの強い者。
- 五積散：冷えのぼせに使う。